

## 令和7年度 第3回学校運営協議会（記録）

窓の外では強い風が吹き、雪が降り積もる中でしたが、令和7年度第3回学校運営協議会を、令和8年2月19日（木）10時00分より、5名の委員の出席のもと開催しました。

学校見学では、幼稚部から高等部の学習の様子を参観しました。小学部低学年普通学級の授業では、「図画工作」で、大小様々な大きさや形の箱を積んだり貼り付けたりして、自分の頭の中で描いているものを表現する学習の様子を、小学部重複学級では体育館で1～6学年が集団で「音楽」を行っている様子、中学部普通学級では「理科」の実験等を参観しました。委員の皆さんは、学習の様子を見て質問をしたり、掲示物を見て感想を言ったりして、終始和やかな様子で参観していました。

次に、教頭より今年度の学校評価について報告しました。

保護者向けの学校評価では、北海道立子ども総合医療・療育センター（以下、コドモックル）に入院する子どもたちの入院期間が短くなる傾向にある中で、全ての回答が4段階中3以上あり、自由記述でも、子どもたちが楽しそうに学校に登校していることなどについて書かれていたことが報告されました。また、学校評価からICTを使った授業について、特に重複学級の子どもたちが学校でどのようにICT機器を使用しながら授業に参加しているか、保護者に伝わりにくい面があることが把握できたことから、次年度は取り組みについて可視化できるようにしていきたいことを報告しました。

職員向けの学校評価では、「ワークライフバランス」について、昨年度よりも時間外勤務の時間が短くなったことなどを報告しました。

委員の方々からは、「手稲養護学校に在籍している入院生は、札幌市だけでなく北海道全域から来ている。親元から離れて入院・治療をしているため、保護者は見えない部分が多く、不安な気持ちになることが多いのではないか。」「病棟では1名の入院生に対し、1名の担当看護師（以下、プライマリー）が配置されており、子どもたちにとってはプライマリーが保護者の代わりのように関わっている面がある。」など意見交換をし、校長より「本校は、子どもに対して医学的な理解は病棟、学習などの理解は教員でフォローしている環境であり、ドクターやリハビリテーション課が入ってケースカンファレンスをしたり、リハビ



リテーション課のセラピストと学校とで連携し支援方法を確認したりするなど、コドモックルと学校とが様々な場面で連携しながら進めている。このように、医療・教育・福祉がひとつになっている環境は道内で唯一である。」ことを説明しました。

次に教頭より、「地域とのつながり」についての今年度の取り組みについて説明し、日本ボッチャ協会の学校訪問授業で全校幼児児童生徒が、パラリンピック公式のランプやボールなどの道具を実際に使用し、本物の感触を体験したことや、運動会や文化祭で学生ボランティアの受入を再開し、たくさんの学生に協力してもらえたことなど、地域のつながりを少しずつ広げてきたことを報告しました。

次に校長より、令和8年度学校経営方針について説明しました。本校は、コドモックル入院生が多く通う学校であるため特に前籍校との連携が重要であり、年間200件を超える入退院数の中で、教職員も本校の特長をしっかりと理解し、組織として様々なことに取り組んでいく必要があること。また、新学習指導要領の改訂に向けた動きを踏まえ、子どもたちの学びをどのようにしていくか、そのために学校としてどのような視点で取り組んでいくべきかを、資料とともに説明をしました。

委員の方々からは、「福祉施設でもDX化が進んでおり、今までの業務をパソコンやタブレットで行うことが増えている。職員にも得意・不得意があるので、全員が一律で同じだけできるようになる難しさがある。」「コドモックルに入院している子どもたちが手稲養護学校に通いたいというニーズがとても多い。いろいろな制度や基準があるとは思いますが、それが緩くなればいいなと思う。」などと、積極的な意見交換を行うことができました。それに対し、校長は「本校に転入してくるお子さんの保護者は、特別支援学校の専門性を求めて転入学してくると思う。本校のオールバリアフリーな環境を含め、本校だからこそできることが多い。そのため、普通学校から転入し戻るお子さんについては、引き継ぎを含めて前籍校との連携を密にしている状況にある。これは、今後もとても重要であるため、教職員の専門性を活かして指導し、前籍校の生活でも活かせるようにしていきたいと思う。」とまとめました。

今回を持ちまして、今年度の学校運営協議委員会を全て終了しました。今年度はコロナ禍で止まっていた「地域とのつながり」について毎回熟議をし、稲穂・金山連合町内会様のご協力の下、地域と合同で実施する「秋の自衛消防訓練」を再開することができました。

計3回の委員会では、毎回委員の方々との積極的な意見交換をさせていただくことができましたこと、改めてお礼申し上げます。委員の方々からいただいた、貴重なご意見を、次年度に活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

(主幹教諭 白木 宜子)